

## どのように始まったか

石井方式は、昭和 26 年に発表されました。当時わたしは、八王子市教育委員会の指導主事をしていましたが、東京教育大学で行なわれた全日本国語教育協議会の全国大会総会で、意見発表をしました。それは、長男で行なった実験を基にした、単なる意見発表に過ぎませんでしたが、それから 2 年後の昭和 28 年から本格的な実験に移ったのです。その実験は、翌 29 年には、中間発表として、26 年に発表した意見の正しさを裏づけるに足る報告を、東京都教委の機関誌「教育時報」に発表しました。

以後、毎年のように、研究発表・公開授業等を続けてきたのですが、その結果、わたしの意見に感心したり、教育の成果を賞讃してくれる先生方はふえました。けれども、わたしの方法を実践しようとする先生はなかなか現われませんでした。

昭和 36 年、『私の漢字教室』（黎明書房発行）で、28 年から 35 年ま

での実験をまとめましたが、この頃から、全国のあちこちに、実践する先生がぼつぼつ現われ始めました。

新潟県亀田町の袋津小学校は、笠原校長を先頭に全校教職員挙げて、石井方式の研究と実践とを推し進めてくれました。わたしは、昭和 37 年の 2 月以来、数回訪問しましたが、訪問のたびにその研究と実践は向上のあとが見え、その後、統合によって廃校となり、実践が中止されましたが、石井方式実践校の貴重な参考資料が残っています。

静岡県熱海市の桃山小学校は、昭和 38 年に当時の岩崎校長の熱心な提唱によって始められ、その後、校長は何回か変わりましたが、今も続けられています。神奈川県立教育センターでは、この桃山小の研究に注目し、たびたび指導主事を派遣するなどして、神奈川県の実験学校と共通の問題により、石井方式による指導の結果と、文部省方式による指導の結果とを比較し、考察を加えるなどして、これをたびたび機関誌に発表しています。公立の教育機関が、このような努

力を払っている例は他にありません。

静岡県富士市の須津小学校の実践も、数年に及んでいます。ことに、同校は、ここ 3 年にわたって、富士市教委の研究指定校として、石井方式実践の跡を、公開授業と共に広く発表しており、関東、関西からも見学に訪れる先生が少なくありません。近畿大学付属小学校の全校実践は、昭和 42 年に始まりました。わたしは校長榎崎浅太郎先生の依頼を受けてたびたび訪問していますが、大きな期待を寄せているものです。

その他、北海道から四国、九州に至るまで、熱心な実践家が現われて、この研究をいろいろな面から進めています。しかし、残念なことには、石井方式漢字教育を進めていくための拠り所となる教科書がありません。そのため、検定教科書の全ページにわたって、かなの部分に用意した漢字を貼りつけています。

この作業は準備が大変です。改めるべき漢字の選定 これは先生方の最も神経を使う仕事です。漢字の印刷 大方はガリ版によ

って、手刷りします。しかも、その漢字が、かなの部分を通り過ぎて隠すようではなりません。また、そのように正しく貼りつけ作業ができるような指導とその手順が大変です。うっかりしますと、「私」が、「わ」だけを隠して「私たくし」となったり、「た」だけを隠して「わ私くし」となったりしかねません。

石井方式を実践して下さる先生方は、ことなかれ主義の校長などから敬遠されながらも、ただ、子どもたちの幸福だけを考えて、このような苦勞をあえてしているのです。